

[内分泌・代謝内科]

[研修の目標]

当科の担当している疾患のうち大多数を占めている糖尿病は、国民病と言われ、約 1,000 万人の患者が推定されており、いずれの診療科においても糖尿病患者と接する機会があると言える。このことから、当科研修における目標として、まずは一般臨床医にも求められる糖尿病の基本的な診療知識を修得することが挙げられる。また、甲状腺や副腎下垂体などのホルモン異常症は比較的専門性の高い疾患と考えられているが、食思不振や肝機能異常、心不全、高血圧症など頻度の高い症状、疾患の中に隠れていることがあるため、見落とされやすい内分泌疾患を確実にスクリーニングできること、また内分泌の検査の基本を修得することを目標とする。

[研修指導者]

長山浩士(臨床研修管理センター長、内分泌・代謝内科部長、治験管理室長、総合内科医長)
日本内科学会専門医・指導医、日本内分泌学会専門医・指導医・評議員、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本甲状腺学会専門医、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般内科医に求められる糖尿病関連疾患の基本的な診察知識・手技を修得する短期(1~3 ヶ月程度)研修を予定しているが、希望に応じてオーダーメイドのプランニングを考えている。

[研修指導体制]

内分泌・代謝内科は、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医指導医 3 名と専門医を目指す医師 2 名で構成され、経験豊かなスタッフのもと、ハイレベルな研修が可能である。また、夜間、休日に関しては当番制をとっており、非番日については拘束されないことを原則としている。

[研修内容および到達目標]

研修では、入院・外来患者を通じて、主に以下のようなことを学ぶことができる。

1)糖尿病；

糖尿病の病因、病型分類の方法：インスリン分泌能や自己抗体の評価法

細小血管合併症(網膜症・腎症・神経症)の検査とその評価法

大血管合併症(虚血性心疾患・閉塞性動脈硬化症・脳血管障害)の検査とその評価法

食事療法の基本的な考え方の取得と食事処方の実践

運動療法の基本的な考え方の取得と運動処方の実践

各種経口血糖降下薬の薬効の理解とその使い分け

各種インスリンの薬効の理解とその使い分け
周術期や妊婦の血糖コントロール法
糖尿病教室の運営方法
患者教育の方法
糖尿病療養指導士(看護師・薬剤師・栄養士)とのチーム医療
2)高脂血症；
検査データ(各種パラメーター)の評価法
病因、病型分類の方法
動脈硬化疾患の検査とその評価法
食事療法の基本的な考え方の取得と食事処方の実践
各種抗高脂血症薬の薬効の理解とその使い分け
3)高血圧；
本態性高血圧症と二次性高血圧症の鑑別法
内分泌性高血圧症の検査(ホルモン値の評価と負荷試験の実践、評価)
各種降圧薬の薬効の理解とその使い分け
4)甲状腺疾患；
甲状腺超音波検査の手技の取得と所見の評価法
甲状腺関連検査の評価法
自己免疫性甲状腺疾患(バセドウ病・橋本病)の病態の理解とその治療(抗甲状腺薬、アイソトープ、手術)の選択と実践
亜急性甲状腺炎の治療
甲状腺結節の良悪性の鑑別法と治療法
5)カルシウム代謝疾患；副甲状腺疾患と骨粗鬆症
副甲状腺超音波検査の手技の取得と所見の評価法
副甲状腺疾患の病態理解とその治療法
下垂体MRI、副腎シンチ検査などの内分泌画像診断ができる
骨粗鬆症の病因分類(各種パラメーターの評価法)
骨粗鬆症の治療法
6)視床下部・下垂体疾患
頭部CT、頭部MRI検査の読影法
各種疾患(クッシング病・先端巨大症・下垂体機能低下症・尿崩症・SIADHなど)の病態の理解と鑑別法(負荷試験を含む)治療
7)副腎疾患；
腹部CT、頭部MRI検査の読影法
副腎腫瘍(クッシング症候群・アルドステロン症・褐色細胞腫)などの病態の理解と鑑別法(負荷試験を含む)治療